主な記事
2面　溝部司教様に感謝
3面　ゆく人くる人
司祭叙階６０周年
トマス土佐義和師の言葉
4面　医療のともしび、若い力
行事紹介
教区スケジュール

カトリック高松教区報

2011年5月29日（第142号）
発行所　カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email（変更 生涯養成 yosei → yousei）
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

教区の一致と再生に力尽くした
７年間の司牧　溝部司教に感謝

高松教区司教に諏訪榮治郎神父

高松教区に新しい司教が誕生する。教皇ベネディクト十六世から三月二十五日に発表された。その結果、この七年間高松教区の一致と再生に力を尽くされた溝部脩司教は教区長としての任務を終えることになる。

浜口末男神父は大分教区司教

浜口末男被選司教

諏訪榮治郎被選司教

高松教区の新しい司教として、現在高知地区の協力宣教司牧モデラトールとして働いている諏訪榮治郎神父（大阪教区）が任命された。諏訪被選司教の叙階式は六月十九日（日）午後二時から高松教区カテドラル桜町教会で行われる。

同時に、大分教区司教に桜町教会担当司祭の浜口末男神父（長崎教区）が任命された。高松教区で働く司祭が同時に二人も司教に任命されたのは異例のことであり、高松教区にとっても大きな恵みといわねばならない。

退任される溝部司教は二〇〇四年七月に仙台教区司教から高松教区司教に着任された。それ以来、教区の一致を目指して苦労の多い道を歩まれた。まず、教区がキリストの教えを喜び伝えるための態勢作りから始められた。司祭評議会・宣教司牧評議会・実働部隊となる数々の委員会の設置等々。

特に青少年司牧活動の活性化に力を入れられた。「若者と聖書」講座にも、自ら四国各地の青年たちのところへ出かけて行って講師を務めた。特筆すべきは、二〇〇七年九月の徳島での結城了雪神父シンポジウムである。列福を前にし、聖なる人の顕彰を通して地域に根差した信仰の掘り起こしとなった。

結城了雪シンポで司会をする溝部司教（左端）

苦労されたのは、教区一致を目指しての新求道共同体「道」への対応だった。神学院の問題では何度もローマへ通われ、閉鎖への道筋をつけられた。シンポジウムにしても、神学院の問題にしても、溝部司教でなければできない仕事であった。そんな成果を上げられたにもかかわらず、ただ淡々と素朴に歩まれる司教の人柄に対し、教区民からの感謝が相次いでいる。

――溝部脩司教様ありがとうございました――

前宣教司牧評議会議長　今泉芳純

「高松教区の司祭、修道者、信徒の皆さん、共に手を取り合って歩むことを誓いましょう」と述べられた着座の日から約七年が過ぎました。

溝部司教様との出会いはその着座式で歓迎の挨拶を述べさせていただいたことから始まりましたが、この度は司教様との思い出をしたためる事になりました。

当時の教区はスタッフが少なく「司教が事務局長を兼ねるんだよなあ」と言われながら、先ずは本部事務局の整備・充実を図られました。その間、司教様の人脈で他教区から優秀なスタッフ、物心両面の応援を得ながら、車の両輪ともいえる司祭評議会と司牧評議会を立ち上げられました。相互のコミュニケーションをとるための広報委員会、教区活性化にはぜひ必要との認識のもと青少年を育成するための青少年委員会、生涯養成委員会等も次々と設置され、高松教区の司牧体制を強化されました。

当時の信徒使徒職協議会はやがて宣教司牧評議会となり、その末席にいた私はただ引っぱられ、ついて行くのが精一杯でした。

講演会、研修会、巡礼時などのお話の一つ一つ、結城了雪神父シンポジウム、そして二〇〇八年長崎での一八八殉教者列福式が、走馬灯のように次から次へと浮かんできますが、その度にその背景という背筋が「一致」で通されたことが分かってきます。

過去に出された司教書簡、教書を振り返ってみると「一致への歩み」、「教区づくりを目指して」、「聖体の秘蹟」、「ともに捧げるミサ」、「主の日の意義について」、「宣教に向けて」、「聖なる過越の三日間の典礼」、「神学院閉鎖通知、これからの高松教区のあるべき姿の提起」、「高松教区三年後に向けて」、「新求道共同体（道）に関して」などがありますが、これらすべては高松教区の「一致」のため、教区民の「一致」のために渾身をこめて作り上げられ、事ある毎に私達に教示されたもので、優しい心配りの中にもやはり「一致」という凛とした背筋で通されていることが窺われます。

私はこのような司教様の提示・提言されたことを深く味わうことなく浅はかな考えで中途半端な実践しか出来なかったことを自省し、悔やんでいます。

司教様は教区のため、宣教のため、青少年の育成のために各地を旅されました。夢を持つ青年たちとの旅、難しい交渉が待っている旅、お願いの旅など数え切れないほどの旅でしたが、これはまさしく言葉だけではなく行動と実践の証であり、そのお働きに心から深く感謝しています。

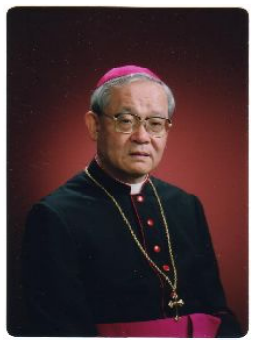
このような激務の中にある司教様にとって、いちばん心休まったことは青年達との交流ではなかったでしょうか。司教様が笑顔で青年達の活躍を楽しそうに話されていた時の輝きは忘れ得ません。

高松教区はこの秋の「教区宣教大会」の準備を歩んでいます。頂いた教えを礎として新司教様の下、一つの目標に向かって歩みたいと私は考えています。

そんな高松教区を見守り、教区の発展をお祈り下さいますようお願い致します。

最後になりましたが、これからはくれぐれもご自愛の上、自由な時間を満喫されますようお祈りいたします。

教区長離任に当たって


溝部脩司教

七年間瞬く間に過ぎ去り、あっけなく退任することになりました。前任の司教様のことを考えると四、五年はかかるだろうと腹をくくっていました。しかし、突然その日がやって来た次第、嬉しい誤算でした。おまけは教区に働く司祭を二名、東京のバチカン大使館に同行しなさいとの電話での命令でした。何とこの小さな貧しい教区から二人も司教に選任されたのです。その驚きを想像してみてください。また二人が大使から司教に選ばれたという通達を受け取ったときの目撃者ともなったのです。私が司教に選任された時とはあまりにも異なっていて、とてもびっくりしました。今からこの二人の司教たちはきっと苦労されることでしょう。私を助けてくださったようにこの二人を教区民が大事にして下さることを切に願うものです。それにしても、あまり状況が良くない高松教区を、諏訪被選司教様はよく受けてくださったと感謝で一杯です。

七年間のご援助に感謝

この七年間はローマに行ったり来たりの歳月でした。殉教者列福のこと、教区内のことも含めて幾度ローマに行ったことでしょう。お蔭様でバチカン市の行政がよくわかりました。教皇庁はやはり官僚機構であり、人間の思惑が渦巻いていること、その中にも伝統に基づいた信仰の土台があることなどが見えてまいりました。教区内のことも、列福式のことも、ローマとの交渉なしには考えられませんでした。何でもローマではなく、地域教会からの発信をしっかりと受け止めるローマという意識を強く持たせてくれたのも良い体験でした。

仕事というのは地味な日常の積み重ねにあります。特に宣教は地味な仕事の積み重ねでしかありません。幸いにこの教区は多くの宣教師に恵まれています。彼らは実りが多いとは言えない土地にあって、地味にこつこつと仕事を積み上げています。三年前列福式を成功させましたが、あれは最後の花火であり、その前の二十数年の目に見えない働きが実ったものにすぎません。今からの教区づくり、自前でゆっくりとキリストが望む教会を実現することに努めてもらいたいものです。

最後になりましたが、この七年間、至らない私を陰になり日向になりご援助くださったことを、心より感謝申し上げます。私はどこにいても高松教区のためにお祈り申し上げています。

溝部　脩

はばたき

これが読まれるころ被災地はどうなっているでしょうか。千年に一度と言われる大地震・大津波に襲われて二ヶ月半、被災地の人々は全てを失いながら、歯を食いしばって生きようとしています。日本中、世界中に支援の輪が広がり、復興へ向けて動き出しています。しかし、震災が人々の心に残した深い傷は容易に癒えることはないでしょう。ことに子供たちの心の傷は。

被災した人たちに必要なのは希望ではないでしょうか。闇がどんなに深くても「明日への希望」が持てるなら、悲しみや苦しみもきっと乗り越えていけるでしょう。

私たちの希望は復活されたイエス様です。あの悲惨な状況の中にイエス様は必ずや立っておられるに違いないのです。「私は世の終わりまで、いつもあなたたちとともにいる」（マタイ二十八・二十）と仰せられたからです。

多くの人が被災した人たちに思いを寄せ、共に歩みたいと願っています。道のりは長いのです。その思いを途切れさせることなく支援し、祈り続けて参りましょう。

溝部司教様が引退されるというお知らせを聞き、私たちはこれまでお心に添えなかったことが悔やまれて、一期一会の大切さを思い知らされているこの頃です。引き際は潔くと願っておられる司教様のお心を大切に、まだこちらにいてくださることをせめてもの慰めとして、これまでの七年間のお働きに心より感謝申し上げます。

溝部司教様ありがとうございました。

お導き下さった溝部司教様に感謝

「若者と聖書」と一ョッキ

道後教会　竹葉純子

溝部司教様には「若者と聖書」の講師として今までに六回、道後教会に来ていただきました。司教様は高松から道後までの遠路を自ら車を運転していらっしゃることが多く、本当はずいぶんと疲れていらっしゃったはずですのに、毎回心を尽くして八人前後の若者たちに聖書のお話しをしてくださいました。

聖書講座の後はお茶会のときもありましたが、司教様は皆とともに食卓を囲みながら人と人との心の交わりを深めることが大変お上手でした。話題が豊富だったり話術が巧みだったりというような表面的な才能によるのではなく、不思議とそばにいる人を暖かい気持にしてくださるのです。

一度、司教様は若者たちに御馳走するために、早めにいらっしゃってイタリア料理のニョッキを作ってくださったことがあります（本場仕込みの美味しいニョッキでした！）。日本全国を飛び回ってお忙しいにも関わらず、こうやってさり気なく手をかけては若者と楽しく交流してくださいました。

「若者と聖書」では長い間本当にお世話になりました。若者だけではなく、大人にとっても楽しくて貴重なお時間をいただいたことに心から感謝しています。

子供たちに聖書伝えたい

マリア幼稚園　植木絵莉・東原景子

私たちが司教様と出会ったのは七年前のこと。毎週火曜日、「若者と聖書」の集いで夜七時から一時間半、聖書を読んで来ました。私たちは幼稚園で子どもたちに話す立場でありながら、聖書の細かい内容を殆ど知りませんでした。例えば、クリスマス会の聖劇。天地創造やご降誕の劇をするにもかかわらず、その内容について自分自身の知識も浅かったため、子どもたちに伝えることが出来ず、戸惑う事がありました。司教様と一緒に聖書を読み、その箇所について説明して頂き、そして最後に皆で分かち合いをすることで、少しずつでしたが、聖書の言葉を自分なりに深めていけるようになりました。聖書について学ぶことはまだまだ多くあると思います。これからも司教様からお誘いいただいた「若者と聖書」の集いに参加することで、いろいろなことを子どもたちに伝えていけたらと思っております。

私たちは聖書のお話だけではなく、司教様が訪れた国の話を聞いたり、ご自身の手料理を頂いたこともありました。司教様と共に楽しい時間を過ごさせて頂いたことに感謝します。

青年たちを大切にされ　暖かい笑顔

〈徳島からの声〉

◇小学校三年生の時に参加した子どもの集いで、ごミサの朗読があたりました。そのときは小さかったので、説教台からは半分しか顔が出ていませんでした。その後で、司教様が「小さいのによく頑張って朗読しました」と、とても褒めてくださいました。忘れられない思い出です。（深堀愛）

◇徳島教会のファミリーキャンプに来てくださった時、夕食の後片付けで、率先して洗い場に立って、洗い物をして下さって、驚くやら、恐縮するやら。いつお会いしても、必ず側に寄ってきて声をかけて下さり、肩を叩いて、些細な小さな事も気にかけて下さる、そんな愛に溢れた、愛さずにはいられない司教様です。（教会学校保護者より）

◇一人一人を大事にして頂いた司教様。本当に淋しい気持ちです。特に青年達を思う気持ちには頭が下がります。私達は司教様が灯された火を絶え間なく灯し続けることが使命だと思って

して下さいました（コリントの愛の賛歌をもじったわけではありませんよ。）。思い出すのは、笑顔の一コマ一コマばかりです。なかでも青年といる時の司教様は一番楽しそうでした。また、フラッと青年を連れて阿波踊り見物にいらして下さいね。高松教区司教の座は退任されても、まだまだ、のんびりなどできないのでしょうね。私たちは、して頂くばかりで、何もお返しできないままでは、いけないですね。どうぞ教区のこれからを見守っていて下さい。本当にありがとうございました。（山口文子）

◇溝部司教様はご多忙の中でも、黙想会や講演会等の講師として徳島を度々訪れてくださいました。また、徳島教会の創立百周年・鳴門教会の創立五十周年の祝いにも駆けつけてくださいました。教区が抱えた多くの課題を解決するために奔走しながらも、徳島地区や小教区を顧みてくださったことに感謝いたします。（橋本正士）

◇長い間私達高松教区信徒のためにご尽力頂き有難うございました。司教様のお話を伺うたびに、司教様のお人柄がよく分かってきました。大変素晴らしいお話有難うございました。これからのご活躍をお祈りしております。新求道共同体の事では大変ご苦労されましたね。教区民の一人として本当にお世話になりました。（堀井みゆき）

◇着座からの六年間、精力的に世界中を飛び回り、いくつもの大きなお仕事を成し遂げられ、私たちに共同宣教司牧への道筋をしっかりと示して下さいました。どれほどのご苦労、苦悩があった事でしょうか。しかし、わたしたちにはそんなお顔はいっさい見せず、いつも忍耐強く、情に厚く、温かいお人柄で、決して驕ることなく、気さくに接います。（片山耕太郎）

教会内に笑い戻った司教様のおかげです

小豆島教会信徒一同

高松教区に司教様が着座されてから、足かけ七年が経とうとしています。この間、六回も担当司祭の交代があり、最初はイスラエルの民のように文句三昧でしたが、その内日本各地から来られたすてきな神父様との出会いと様々な体験に喜び、右近祭では真夏のミサの後、冷たいソーメンで、司教様、四国中のお客さんと共に楽しいひとときを過ごすようになっていきました。

司教様が初めて来島された時、厳しいお顔に私たちは正直距離を覚えたものです。しかし四年前、みんなで高槻教会の右近祭に参加して司教様と夕食をご一緒した時の楽しかったこと。あの時から司教様は私たちにとって身近な存在になりました。そして共に歩ませていただく中で、ようやくそのお心をしっかり受け止められるようになりました。

私たちが今、こうして共に笑って信仰生活を送っているのは、司教様のおかげです。これからはこの喜びを四国中の信徒のみなさまと分かち合っていきたいと願っています。司教様、私たちの笑い声を聴きに、いつでも小豆島教会においでください。お待ちしております。

司教様との巡礼の旅　殉教と愛教えられた

中島町教会　松本英子

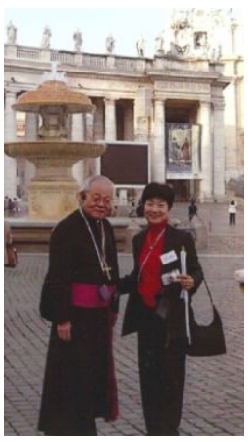
司教様との何よりの想い出は長崎での一八八殉教者列福式とそれに続くローマ巡礼の旅です。

バチカンでは教皇様との謁見があり列福式では福者の聖遺物が奉納されました。

ローマで司教様と最初に訪れたのはポポロ門です。ペトロ岐部もこの門を潜りローマ入りを果たしたそうです。またカンピドリオの丘から眺めたフォロ・ロマーノの全景には幾多の変遷を経て今に至る歴史の重みを感じ、その他数多くの絢爛豪華な教会建造物、絵画、彫刻等は息を呑む程でした。

けれどもその対極に位置するであろうアシジで出会ったフランシスコの着た継ぎはぎだらけの衣服には息を呑みました。この貧しさの中にこそ目に見えない神の真髄が隠されていると実感しました。そこに殉教者の信仰と愛の思いが重なります。

日本ではザビエルから始まり殉教者が歩んだこの道程を通して、今に至る私達の教会がある事と、現代に於いての殉教とは何かを考える機会を司教様は指し示して下さいました。だからこそ殉教者に光を当てることに尽力されているのだと思います。司教様は一人ひとりをとても大切にして下さいます。そして何よりも対話を大事になさいます。その司教様の思いをしっかり受け止め、殉教者の生き方を通してこれからのあるべき教会の姿を探りながら聖霊に照らされ、皆で共に喜びをもって歩んでいきたいと思います。これからも共にいて下さる事を願い感謝を込めて―。



萌えに燃ゆ
若葉のごとくおもい満ち
主に身をまかせ歩み再び

司教様は　よき父、よき師

松山教会　高田康信

溝部司教様は私たち高松教区の青年たちにとって、良き父であり師であり、良き同伴者です。私たち青年が信仰の道をきちんと歩むことができるように導いて下さったからこそ、今の私たちがあると考えています。

特に司教様は、青年に多くの体験活動を用意してくださいました。それは、巡礼や黙想会など多岐に及びました。司教様は行く先々で若者をはじめ、司祭、ブラザー、シスターなど様々な方々と交わる機会を私たちに与えてくださいました。そこでは、一緒に食事をしながらお話をし、趣味、信仰の話、さらには将来の話まで発展することもありました。そして最後には振り返りの時間を設けて、静かな心でその日を振り返ることで、気持ちを新たにすることができました。その度ごとに私は考えさせられることばかりで、いつも新鮮な気持ちで体験を終えることができました。今振り返ると、常に心が満たされていたと思います。司教様は、私たちに様々な言葉を残してくれました。その中で、特に印象に残った言葉があります。「べたつく優しさは必要ない。本当に愛する人は、じっと黙り、相手の必要がなんであるかを見極める。」よく、「愛する」という言葉から優しくするということを連想しがちな私にとっては、思いがけない一言でした。まずは、相手をしっかりと見て、いい部分もそうではない部分も含めて、その人であるということを認識することが大事だと、一つの気付きを頂きました。そうして出会う一人一人の中に神様がいるということを改めて感じました。だからこそ、本当に愛するということは、まず相手をじっくりと見て、そこから考えることだということが、その時初めて理解できました。

私は、司教様が高松教区に残された多くのことは必ず実を結び、大きな花を咲かすと信じています。どんな出来事にも必ず計らいがあることを司教様は私たちに教えて下さいました。私たち青年はこれからも一つになって歩みます。司教様、今まで本当にありがとうございました。司教様の上に主の恵みが豊かにそそがれますように私たち青年は祈っています。

溝部司教様は高松教区「再生」と一致への導き

江ノ口教会　山下精三

溝部司教さんの七年前の着座は、渦中の高松教区へ、覚悟の捨身ではなかったかと思われてならない。教区の一致を粘り強く説き、教区のあるべき姿を一つ一つ積み上げられ、進むべき方向を示してくださいました。

各評議会の立ち上げから、組織化による機能と運営が定着し、三年前から教区の現状認識、養成の年を経て今秋には「教区宣教大会」まで、わたし達を導いてくださいました。

四年前に、わたしは経済問題評議委員に、一昨年から宣教司牧評議員に司教さんから指名を受け、会議の場で接する機会が多くなりました。会議を通じて感じたことは、議事録には残らないような司教さんのお話しでした。どちらかといえば、とつとつとしたお話し振りで、飾り気のない真摯で謙虚なお姿でした。

わたしばかりか、信徒の尊敬を一身に集められた溝部司教さんの今後について、どのようにお過ごしになるのか存じませんが、これからは高松教区の象徴として、何時までも教区に留まって頂きたいと願わずにはいられません。高松教区の再生と一致への導きに対し、こころから感謝とお礼を申し上げます。

司祭叙階60周年 記念式 ダイアモンド祝

クレメンシオ マンソ神父様　　池田義高 神父様

観音寺の街では神父様は有名人。運転中は何時もサングラスと帽子がFr,マンソ。極めつけはスペイン料理がすごくお得意。温かくて心の広い方と人々が口を揃える。今年83歳を迎えるマンソ神父様！これからも神様の愛と喜びを周りの人たちに運ぶことだろう。

おめでとうございます

60年前、遠い長崎から高松教区へ来られた。番町教会で叙階され新司祭として誕生した若くてスマートで素敵な池田神父様。

それからの長い年月、教区のため、又幼稚園のために尽力し活躍。60年にも及ぶ働きに心から感謝。

溝部脩司教と浜口末男師への 慰労感謝式

４月１３日（水）聖香油ミサの中でクレメンシオ・マンソ神父（スペイン宣教会）、池田義高神父（教区司祭）の司祭叙階６０周年を祝う式、及び、近く退任する溝部司教と大分教区の被選司教となり桜町教会担当から離任した浜口末男神父への慰労感謝式が行われた。

高松教区辞令（2011/04/25付け）

（　）は前任地

諏訪榮治郎	高松司教館 司教	(高知江ノ口教会)
浜口末男	大分司教館 司教	(桜町教会担当)
村上康助	高松司教館・教区会計担当	(三本松教会)
サンティアゴ・サイズ	今治教会担当	(教区会計担当)
レナト・フィリピーニ	桜町教会担当	(福岡教区武蔵ヶ丘教会)
セコ・パウロ	三本松教会担当(9月まで) (10月より)香南町修道院管理者・生涯養成委員会委員長	
イル・ダヤラージ	高知地区地区長　高知中島町教会・江ノ口教会担当	
ホルヘ・ソーサ	東讃ブロック協力司祭	
硫黄隆二	安芸・赤岡教会担当	(福岡教区)
溝部　脩	高知地区協力者	(高松司教館)
氏家和仁	仙台教区	(東讃ブロック協力司祭)

＜はじめまして＞

Sr.刀根（とね）美津子

皆様はじめまして。この四月より桜町聖母幼稚園に御世話になっています。修道会はナミュール・ノートルダム会です。これまでずっと岡山の清心女子大学付属幼稚園に勤めておりました。教区での使徒職は初めてですが、皆様と早くお知り合いになり、共に歩んで参りたいと思っています。全くトンチンカンなことをすることもあると思いますが、その折はどうぞご指導くださいませ。宜しくお願い致します。

レナト・フィリピーニ神父

はじめまして。私は、一九七〇年（昭和四十五年）八月十三日、北イタリアに生れました。家族は四人です。父（六十八才）、母（六十五才）、姉（四十三才、主人と男の子二人と暮らしています）。中学一年の時、フランシスコ・ザビエルの物語を読んで、宣教師になりたいと考え始めました。中二から高校卒業まで、ザベリオ会学院で勉強しました。その後、修練所に入って、誓願を立てました。自国の文化とは異なる他国のザベリオ会員と共同生活する事を希望していたので、哲学科の勉強の後、神学のためにアメリカのシカゴに派遣されました（一九九二年）。一九九七年、ふるさとで司祭叙階を受けた後、来日。日本語を習得して、一九九九年、鹿児島教区へ派遣され、十二才の頃心を打たれたザビエルの足跡を直接たどることが出来ました。二〇〇五年、福岡教区熊本地区に派遣され、武蔵ヶ丘教会を担当しました。今年の三月、この武蔵ヶ丘教会出身者から司祭が誕生しました。この度、神様が高松教区、仙台教区に戻ることが決まった氏家和仁です。

東日本大震災により仙台教区の青森・宮城・岩手・福島の沿岸部の都市が壊滅状態であることは、皆さま方もご存じのとおりです。仙台教区の小教区共同体も大きな打撃を受けました。教会、幼稚園、学校、施設等はもとより信徒の方々の家屋等も損壊している状態です。それにも増して余震が続く不安の中での生活は、精神的なダメージが強く、多くの方々が病んでいるとも知らされました。その折に仙台教区長平賀徹夫司教から、救援活動の司牧に当たって欲しいとの要請があり、仙台教区に戻ることになりました。

心からの感謝を

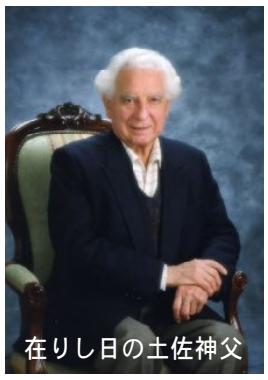
氏家和仁神父

一年と八カ月という短い間でしたが、本当にお世話になりました。何の力にもなれず高松を離れるのは口惜しい限りです。新司教を迎え新たな教会づくりをする矢先に水を差すようなこととなり誠に申し訳ありません。心からお詫び申し上げます。また、溝部司教様はじめ教区事務局の方々、司祭団、信徒の方々に心から支えて頂いたことに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

復旧・復興の活動はこれからです。私自身何が出来るかわかりません。どうか祈りを以て支えて下さい。高松教区との関係が終わるのではなく、互いに支え合いながら今後の互いの教区づくりにつながることを願いながら、又お会いする事を楽しみにしています。神様の豊かな恵みが皆様に注がれますように。

桜町教会をはじめ、東讃ブロックを通してどんな素晴らしい出会いに巡り合わせて下さるだろうかと、わくわくしています。趣味は読書、ランニング。和食が好きで大好物は御刺身。お酒は飲みませんが甘いものが大好きです。

◇ 土佐神父様の残された言葉 ◇



在りし日の土佐神父

三月末に逝去されたトマス土佐義和（ザビエル・デルポート）師を偲び御自身が残された言葉を紹介します。

教会の司祭として

私はキリスト教的な文化の国、フランドル（北ベルギー）に生まれ、フランシスコ・ザビエルの洗礼の名前をもらった。

少年時代（中学生）の間五年間戦争の経験があった。そのとき、人のために一生を捧げたい気持ちが生まれ、イエス・キリストを知らない日本を選びました。自分の母のように、イエスの母マリアを尊敬し、オブレート会、聖母献身宣教会に入って、司祭宣教師になった。聖マリアが、自分の子イエスを一生懸命に育てたように、私を守ってくれることを信じた。

安芸教会、赤岡教会、江ノ口教会の主任司祭となり、説教はある人に好かれ、あるひとに嫌われたりもした。人の喜びと悲しみをよりよく共にするために司祭館を出て、一般の家に住むことにした。

社会の中で

私は教会以外に、社会の中でも働いた。まず、自分が日本の社会を勉強するために安芸中学校と高校へ四年間通った。

非行少年少女たちの施設で三十年間ぐらい、高知大、リハビリ学園、教会の塾、聖母学園、土佐短大などで外国語を教えた。授業の間に自分の人生観、精神、博愛を伝えたにちがいない。忍耐と理解が足らなかったことは本当です。高知女子大のEESクラブのメンバー達に英語のスピーチと英語のドラマのアドバイザー（助言者）として指導者としてよりも、歳上の友達か、お父さん役として三十年ぐらい楽しく頑張りました。そこで最初のあだ名をもらった。つまり「デルちゃん」。それは「デルポート」より言い易かったから。

敷居が高い教会に住むことをやめて、普通の住まい、普通の近所に引っ越した。教会の手伝いと同時に、正義と平和の運動に参加した。当然日本の市民権を受けたかった。はやいスピードで「土佐義和」になりました。義和の漢字は「正義」と「平和」です。

ちょっとひといき

瓦礫打つ雨よ流せよ悲しみを
陸奥の創生願うご復活
愛深き牧者ねぎらう新司教

坂出一信徒

多様性の一致 みんなで交わろう

人権を考える委員会
委員長　イルダヤラージ

去る三月二十日、日本カトリック難民移住移動委員会・大阪教会管区セミナーが、カトリック四国会館で開催されました。

「神はご自分にかたどって人を創造された」と聖書にはあります。私たち一人一人も神にかたどって創造されています。この地で多くの人々が交わり、分かち合う事ができ感謝しています。

これまでも様々な形で交流はあったと思いますが、こうした集いは数年前に比べて回数も増えていることは確かです。ただ、人と人との交わりはだんだんと深まって行かなければ、いろいろな機会を作っても、同じ時間を共に過ごしただけになってしまい、その距離感をいつまでも縮める事は出来ないのではないかと思うのです。

今回のセミナーが四国で開かれ、四県からも多くの人が参加し関心を持って下さったことは、今後もこの課題を共に考え、一緒に働く力となると期待しています。

人との交わりは、普段の何気ない会話や、気遣い、ふれあいの中で深まって行くと思っています。そうした自然な交わりを持つためには、どのようにすればよいのでしょうか。これまで、少しずつ進んできた日本人信徒と外国籍信徒の方々との交流をもっともっと深めていくために、これからも皆さんとご一緒に考えて行きたいと思っています。

四国会館で開かれた難民移住移動委・大阪管区セミナー

医療のともしび（26）

東北地方太平洋沖地震

平成２３年３月１１日に発生した地震は甚大な被害をもたらしました。５月１１日現在１万４９４９人が亡くなり、行方不明者が９８８０人とされています。

地震の被害に加えて津波が、さらに福島原発事故が発生し、いまだ収拾していません。大変な状況であり、今後も復旧復興には長期間に亘るといわれています。

一方、高松教区は、ほとんど影響を受けていません。しかし、ここはしっかり考えて当事者意識を持つことが重要だと考えています。決して東北地方に限った問題ではなく、日本人全体でこの未曾有の事態を受け止め、乗り越えていくことが必要だと思うのです。

では高松教区、または一般信徒としてなにができるでしょうか。私なりに考えてみました。いろいろとあるでしょうし、みんなで叡智を結集しなければならないと思います。

直接的な方法

１　義援金（地域単位、職場単位、またはすでに応募されているものに参加する。）

２　物資援助（市役所単位で受け付けています。飲料水、毛布、粉ミルクなど。）

３　人的支援（ボランテイアとして。）

４　被災者への住居提供（被災者が高松教区に来る。）

５　被災者への医療支援（被災者が高松教区の病院診療所に来る。日本病院会で開始。）

間接的な方法

ａ　祈り

ｂ　政府による支援、そしてその財源確保への協力（震災復興債、増税など。）

ｃ　現在被災地で復旧のため活躍されている方々への感謝の気持ち

ｄ　お金を使うこと

ｄについて、おやっと思われるので説明します。危機時には人間の心理として、なにが起こるかわからないという恐怖から自粛モードになります。これは経済の復興という観点からは逆効果になります。逆にお金を使うと、消費増大からＧＤＰ（国民総生産）が上昇しますし、消費税から国に入る収入が増加します（自粛すると、このフローが停滞してしまうのです。）。復興には２５兆円を超える金額が必要と言われているようです。とてつもない金額ですがストックとしての金額です。長い期間に亘ってこの金額は必要になりますが、当面はお金をうまく流通させることが大切なのです。人の体でいえば十分な血液が流れて、組織が再生していくイメージとなります。逆に十分な血液量がないと組織はうまく再生しないのです（フローは血液ということになります。）。ＧＤＰを下げないようにすることが重要です。無駄使いをしようと言っているのではありません。数ヶ月後にお金を使用する予定があるとしたら今購入する、被災者のために援助物資を購入し送ってあげるなどが良いと思います。これで間接的に経済復興に寄与します。

さらにもっといい方法があります。売り上げの一部を被災地に寄付する企業もでてきていて「応援消費」と言われています。これなら、多めに買いたくなりますね。

聖マルチン病院　整形外科　田賀谷健一

教区スケジュール

6月

5日（日）主の昇天の主日
合唱コンクール（第２回聖歌合戦）と典礼研修会in桜町
7日（火）大阪教会管区司祭研修会in大阪（～11日）
12日（日）聖霊降臨の主日
13日（月）年間第１週　定例司教総会（～17日）
19日（日）三位一体の主日
諏訪榮治郎司教叙階式 14:00 桜町カテドラル
24日（金）洗礼者ヨハネの誕生
宣教司牧評議会 13:00
26日（日）キリストの聖体
浜口末男司教叙階式 14:00 大分
29日（水）聖ペトロと聖パウロ使徒
30日（木）宗教者平和懇話会in丸亀

7月

1日（金）イエスのみこころ　ペトロ岐部司祭と187殉教者祝日
3日（日）年間第14主日 結城了雪祭（阿南）
全国あっちこっちミサ 場所未定
5日（火）司祭評議会 10:00
宗教者平和懇話会主催・五島列島巡礼（～8日（金））
9日（土）広報編集講習会 13:00 桜町教会
第34回青少年委員会in徳島
10日（日）年間第15主日
17日（日）年間第16主日高山右近祭（小豆島）
「元気を出そう中高生ミサ」 番町教会
18日（月）海の日
19日（火）溝部司教着座記念
22日（金）宣教司牧評議会役員会 13:00
24日（日）年間第17主日
25日（月）聖ヤコブ使徒
26日（火）聖ヨアキムと聖アンナ
29日（金）～30日（土）教区幼稚園連合会研修会（徳島）
31日（日）年間第18主日

日韓学生交流会（韓国馬山教会）

松山教会　高田康信

韓国に到着した時、正直「韓国に到着した」という印象を感じませんでした。やはり日本と韓国が近い国で似ている部分が多いからでしょう。最近では、音楽などの文化交流などで若者にとっては、共感できる部分がたくさんあります。しかし、私が今回一番感じたことは、「キリストによって１つに結ばれている」ということでした。言語や歴史など違うものをお互いが背負いながらも、ミサやテゼなどを通じて私たちは１つになることができたということは、私だけではなく参加者全員にとって大きな喜びになったと思います。ホームステイさせてもらった時もおいしいご馳走などをお腹いっぱいになるまでいただき、家族のことや日本のことなどについてたくさんお話しをしました。その後、家族全員でお祈りをして一日を締めくくることができたこともとても貴重な体験でした。今回は、韓国側がホストとして私たちを迎え入れてくれました。彼らはこれ以上ないというくらいに優しく接してくれました。何か困ったことがないかを私たちに聞いてくれたり、分からないところがあったら、丁寧に教えてくれました。私たちが、韓国のお寺を見学した時に参拝しようとする私たちを韓国の友達がすぐに止めて「私たちはカトリックだから、参拝してはいけない。」と言われました。その後、その友達と日本と韓国のカトリックの違いについて話をしました。私が理解していなかったら、その友達は私が分かるまで丁寧に教えてくれました。今回の交流会を通じて、日韓の相違点を知ることができたのと同時に、それを踏まえたうえで、私たちはキリストによって１つに結ばれているということを実感できました。韓国のみなさん、本当にありがとうございました。

若い力

こども夜回り隊・釜が崎

桜町教会　川中翔太

１月２２～２３日、高松教区から８名、岡山・大阪からそれぞれ１名ずつの計１０名で、大阪の釜が崎と呼ばれる地区へ行ってきました。新今宮駅から通天閣を背にして徒歩５分の位置、釜が崎の中にある『こどもの里』という場所で子供達と一緒に２０時から１時間半ほど、元路上生活者の方のお話を聞いたり、ビデオで映像をみたりして“釜が崎”という場所について勉強しました。

その後、実際に外に出て路上で寝泊まりしている方に声をかけ、おにぎりとみそ汁を配りながらお話しをききました。

体調はいかがですか？食事はとれていますか？なにか困っていることはありませんか？一日どんな生活を？お仕事は？などなど…、様々な問いかけで会話をしながら、その方の身体の具合や悩みやつらさをきくことができました。寒いとわかって温かい格好をしていた私でさえ寒いと感じる冬の深夜に、寝袋や段ボールだけで休まれているのを見、わかっていたはずなのに、とてもショックを感じました。

この夜回りには、子供達や私達若者に、ちゃんと“今ここにあること”を受け止めていってほしいという思いや、交わる中で人の温かさというものを心から感じてほしいという思いなど、本当に意味があるのだと思います。

その様々な意味の中で私にとって大きく感じたことは、ご本人の一人で生きる孤独感や不安感などを和らげ、少しでも前を向いて頑張る元気や気持ちを持ってもらうことかなと思います。

夜回りで、最初にむかったのはなんと墓地でした。墓石の間にブルーシートや段ボールを広げて休まれている方や自転車とフェンスにシートをかけている方がおられました。墓地で寝ている人がいるなんて想像もせず、初めは驚きと「なぜ墓地で？」という疑問がありました。あとで聞くと「墓地は暗くて人通りも無く、とても静かな休むにはいい場所で、お供えものもあるから」なのだそうです。

そこからは、公園、駅や道路などを歩きました。すると、所々にブルーシートや段ボールの簡易の部屋がありました。

昨年より大阪府では雇用対策などをしているとのことで、大分少なくはなってきたと聞きましたが、私たちは６つのグループで４００人弱の方に会いました。

実際に声をかけてみて、声かけに応えて下さった方はどの方もその声かけを心から感謝され、おにぎりやみそ汁も「ありがとう、ありがとう」と嬉しそうにいただかれていました。

話を聞き、まず感じるのは、おかれている状況やそれまでの過程は本当に様々で、ケガ、病気、リストラ、親族関係など思いがけない不運・不幸などから、路上生活はしていても、年金が入り、いくらか助かっているという方もおられました。

ただ、いえるのは誰も好きで路上に寝泊まりはしていないこと、そして、誰しも「路上から畳へあがりたい」と望みながら一日一日を過ごしていることです。

そのために、この世の中を恨むことよりも“生きる”ということに精一杯なことが、とても強く伝わってきました。

私個人には、国や政治を変える力はありませんし、今から変わっても、今そこにいる方にすぐには届かないかもしれません。それよりもまず、それぞれが一人の人を大切に思い、声かけをすることが、今出来ることだと感じました。そして、実際に路上におられる方を一人にしないこと。人権を考え、福祉の心を持つことが必要なことではないかと思いました。

この体験は、本当に貴重な体験となりました。想像をはるかにこえ、世界は動き続けています。

私たちになにができるか、それを考えてみませんか。

編集後記

この数カ月教区にとって大きな動きが続き、慌ただしい日々が続いた。六月から諏訪新教区長のもと教区の一致と再生を目指し教区民一丸となって邁進していきたいものです。

諏訪榮治郎司教叙階式

日時：６月１９日（日）午後２時
場所：桜町カテドラル

浜口末男司教叙階式

日時：６月２６日（日）午後２時
場所：大分市ビーコンプラザ

広報編集講習会

日時：７月９日（土）午後１時
場所：カトリック四国会館３階会議室
対象：小教区広報委員他
講師：丸尾修氏（道後教会）
主催：高松教区広報委員会

仙台教区へ義援金を贈る

東日本大地震と津波及び原子力発電所被災事故の放射線による仙台教区民の被災に対し高松教区は独自で１千万円募金を行い、集まった１００８万円余りを仙台教区に送金しました。皆様のご協力に感謝致します。

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園

医療法人社団聖心会 阪本病院
看護師・准看護師
随時募集中です！
院内保育園開設

ご連絡をお待ちしています。
連絡先（事務局）
0120-770-315

住環境福祉コーディネーターが家造り
福祉住環境リフォーム
高齢者・障害者に配慮したバリアフリーの住宅
福祉住環境リフォーム・新築・増改築工事・設計施工
有限会社リフォームオオタ
代表取締役　太田　修
〒763-0092　丸亀市川西町南449番地3　TEL (0877) 28-0881・FAX (0877) 28-0190
E-mail o-chandazo@theia.ccn.ne.jp　URL http://www.reform-oota.co.jp